

現代アラブ世界の形成とアラビア語ネットワークの実態調査

平成 18 年編入

派遣先国：チュニジア・リビア・エジプト

竹田敏之

キーワード：ALECSO（アラブ教育文化学術機構）、アラビア語学術アカデミー統一連合、
リビア・アラビア語アカデミー、アラビア語化（タアリーブ）、現代アラビア語

対象とする問題の概要

22 の国からなる現代アラブ世界を「アラブ」たらしめる最も重要な要素は、その広大な地域と多様な人々を結ぶコミュニケーション媒体、すなわち共通語としてのアラビア語とそれに立脚する文化である。現代アラブ世界は、多言語世界であったオスマン帝国崩壊の後、アラブ諸国の共通語としての「現代アラビア語」が成立していく過程で形成された。

近年、アラブ世界ではこの「現代アラビア語」をめぐる議論が以前にも増して活発になっている。2007 年 3 月、創設 75 周年を迎えたカイロ・アラビア語アカデミーでは、「21 世紀のグローバル化とアラビア語」を主要テーマに国際シンポジウムが開催された。また同年 12 月には、アラブ諸国の学術アカデミーがリビアの首都トリポリに一堂に会し、「アラブ世界における学術用語の制定とその統一」に関する会議が行われた。

著しい情報・科学技術の進歩とグローバル化の流れの中、アラビア語を主軸とした言語共同体の形成とアラブ諸国の連帯強化は、現代アラブ世界の重要課題となっている。



ALECSO（アラブ教育文化学術機構）本部、チュニジア首都にて。アラブ連盟に加盟する 22 カ国（パレスチナを含む）の国旗が掲げられている。

研究目的

報告者はこれまで、文法改革と現代語の再整備に焦点を当て現代アラブ世界の形成を論じてきた。昨年は、アラビア語アカデミー（エジプト・シリア・ヨルダン）に関する現地調査を実施し、アラビア語を論じる共通の場の存在とその実態を明らかにした。

アラブ世界に数あるこの知的な場の存在が、共通語としての現代アラビア語の成立を強化し、アラビア語を紐帯とする言語共同体の形成を助けている。本研究では、このような場を共有する研究機関や人的つながりを「アラビア語ネットワーク」と呼び、現代アラブ世界を考察するための新たな鍵概念として設定した。

本調査で対象とした機関はおもに、アラブ連盟の傘下に 1964 年に設立された ALECSO（アラブ教育文化学術機構）と、1971 年に各国のアラビア語研究機関を統括する目的で設立された「アラビア語学術アカデミー統一連合」（以下、アカデミー統一連合）である。ともにアラビア語を軸とするアラブ世界

の連帯性を論じる上で非常に重要な機関である。本研究では、この2機関とその周縁組織の実態調査を中心に、現代アラブ世界の形成を「アラビア語ネットワーク」という新たな視点から考究することを目指す。



リビア・アラビア語アカデミー（2002年設立）。右の写真はリビア・アカデミー副会長のアリー教授と報告者。かつて京都を訪問したことがあるとのこと。調査にいろいろご協力いただいた。

フィールドワークから得られた知見

派遣先国のチュニジアでは ALECSO 本部を訪問し、広報担当のマルアシュリー氏へ同機関の沿革と、特にアラビア語教育に関連する活動について聞き取り調査を行った。ALECSO は 1989 年よりアラブ諸国の学術機関との協力のもと、アラブ世界における学術用語の統一を目指す活動・出版を精力的に行っている。今回の調査では同機関が推進する教育分野における学術用語と外来語の整備、そして関連する刊行物・辞書類について貴重な情報の提供を受けた。また調査の過程で、アラブ世界を代表するアラビア語研究者のハムザーウィー教授（現代アラビア語論・辞書学）を紹介いただき、同教授を中心に運営されている「チュニジア辞書協会」への訪問・調査の機会を得ることができた。同協会は 1983 年に設立された学術機関で、豊富な古典例文と出典を網羅するアラビア語大辞書の編纂プロジェクトを進めている。将来的にカイロ・アラビア語アカデミーが進める類似のプロジェクトといかなる協力関係になるのか、その動向が注目される。

続くリビアでは、アカデミー統一連合内でも近年急速に発言力を高めているリビア・アラビア語アカデミー（2002年設立）を訪問、副会長のアリー教授（歴史学）と面会し、同機関の活動とリビアにおけるアラビア語研究について聞き取り調査を行った。本アカデミーについては、その存在は Brill 社より刊行されている『アラビア語学百科事典』でも言及があるが、実態は不明なままであった。今回の調査で、アカデミー設立への歴史的経緯とこれまでの活動内容について詳細な情報を得ることができた。また、アカデミーが刊行する学術雑誌・出版物を始め、リビアのアラビア語政策に関する資料・文献収集を行った。

エジプトでは、カウンターパートであるカイロ大学政経学部アジア研究センターの指導のもと、アカデミー統一連合に関する調査を実施した。昨年に引き続き、これまでに開催された国際会議の資料収集を進め、特に 1976 年にアルジェで行われた「アラビア語教育改革に関する国際会議」の調査を行った。また、今回の訪問では、カイロ・アラビア語アカデミー会長（統一連合会長を兼任）のハーフィズ教授と直接面会、聞き取り調査が可能となった。ハーフィズ教授は、昆虫学で博士号を取得した初のエジプト人として名声を博した人物で、特に理系学術用語のアラビア語化（タアリーブ）を強く訴え続けてきたことでも知られている。その経験と学識から、現代アラビア語の整備を通じたアラブ世界のネットワーク形成について非常に有益な知見の提供を受けた。



カイロ・アラビア語アカデミー会長（アカデミー統一連合会長兼任）のハーフィズ教授と。1912年生まれの96歳という高齢にもかかわらず、報告者の様々な質問に丁寧に答えてくださった。

今後の展開・反省点

本研究では、現代アラブ世界の形成を「アラビア語ネットワーク」を鍵言葉に解析することを試み、以下のことが明らかになった。

①アラブ世界では知識人の人的交流がトランスナショナルな形で行われており、さらに各学術機関の知的活動が連動することで、現代アラビア語をめぐる知的論争の場は以前にも増して活性化されている。②アラビア語を軸に生成されるこの知的交流、すなわち「アラビア語ネットワーク」は、アラビア語とそれに立脚する文化遺産を共有するアラブ世界の連帯性の強化に繋がっている。③さらにアラビア語自体も、このような知的ネットワークの形成とそこを融通無碍に往来する知識人により、「現代フスハー」の重要な特徴である共通口語としての側面がより強化されている、ということである。

今後はさらにこの「現代フスハー」に関するテキストデータの収集と調査・分析を行い、現代アラブ世界の形成を、現代アラビア語とその政治社会的機能という観点から実証的に論じていく予定である。